

ミгранテ報告

AWC 総会 (2016 年 2 月 27-28 日)

本日行われている皆さんの総会に、熱烈な連帯のあいさつを送ります。また、日本に住む私たちフィリピンの仲間たちの闘いを皆さんと共有するために招待していただいて、ありがとうございます。

日本はずっと、海外からの移民に対して慎重な態度をとってきた。そして多民族と多様性という考えを否定し、長い間外の世界から遮断されてきた。こうした態度が、なぜ日本が入国管理政策を非常に厳しくし、外国の労働者が日本の労働市場に入ってくるのをとても厳しくしているのかを説明してくれる。

しかしながら最近になって、日本自身が非熟練労働者を必要とするという事情によって、こうした態度はいくらかは変わってきた。年ごとに、この国に入国する海外からの移民の数が増えていることに示されているように、日本は少しずつではあれ、日本人以外の人たちに労働力の需要、特に日本人がいやがる仕事への需要を満たすために門戸を広げてきている。しかし、移民を受け入れている多くの国のように、今日では日本社会の成長の原動力となっている移民を、どうすれば適正に扱えるのかについて、日本は もっとももっとたくさんのことを学ばなければならない。

一般的に言って、移民、特にフィリピンなどのように貧しい国々から来る人たちは、虐待されやすく、搾取されやすい。彼らは、差別されており、また、分断されている。彼らへの蔑視は、明らかに国が容認している反移民政策によってしばしば、よりひどいものとなる。私たちがこの 20 年間で日本で見てきたように、継続する危機の時代にあって、最悪の事態です。

司法制度と法務省の研究部によれば、2014 年には、212 万 1831 人の海外からの移民が登録されている。このうち、65 万 4777 人は中国から、50 万 1230 人は南北コリアから、21 万 7585 人はフィリピンから、そして 17 万 5410 人はブラジルから来ている。今日の日本には、主に 4 つの大きなエスニック・マイノリティのグループがあることになる。もし、「オーバーステイ」や、登録されていない人たちの数を含めると、その人数は 250 万人になるだろう。

日本で登録されている 21 万 7585 人のフィリピン人の 60% は、既婚者か、日本人とフィリピン人との間の子供の独身の保護者である。こうした女性の多くは、1980 年代の初めに、ナイトクラブやバーで働くエンターテイナーとして来日した。また、日本の技術研修・実習制度のもとで来日した 1 万 2721 人のフィリピン人、文部省（文科省）の制度による 1013 人の研究者、日比経済連携協定（JPEPA）による看護師や介護労働者たちがいる。また、「ニッケイ」（日系）と呼ばれる、第二次世界大戦中の日本人の子孫であるフィリピン人の子孫たちが増えていることも特筆すべきだ。

最近では、大阪府や神奈川県で、規制緩和特区の試行プログラムとして、国内で外国人労働者を雇用することも始めている。これは、人口に占める 65 歳以上の割合がすでに 2014 年には人口の 25% に達している～2060 年には 40% に達するという国立社会保障・人口問題研究所の調査によって、今後 10 年間で日本の労働人口が急激に減少していくと予測されていることの反映である。こうした動向は、若い既婚の女性が家族の収入を増やすために労働力となっていくことを後押しし、長期的な経済効果を主な目的としている。しかし、あらためて言うが、問

題は日本の度量と積極性 国内の外国人労働者の権利を尊重し、虐待そのほかの人権侵害からの十分な防御ができるのか、という点である。日本が移民を虐待や軽視してきた実績から、私たちはこのプログラムが完全に実施された場合、深刻な問題が迫ってくると予想している。

滞日フィリピン人の状況

滞日フィリピン人は日本社会の一部であり、移住労働者は日本の労働力の人口の一部である。報道を含む右派勢力の意見とは反対に、移民は、日本の長引く経済問題の原因ではない。移住労働者がいなかったとしても、日本の経済的苦痛はきわめて深刻な状態であったというのが、真実だ。

事実、移住労働者たちは、日本の仲間と同じように、搾取され抑圧されている。そしてより長い時間働かされ、しばしば、法定額以下の賃金しか受け取っていない。彼らは雇用契約制度の犠牲者であり、労働者や他の福利厚生も十分ではない。彼らの多くは、不安全な労働環境で、いわゆる「3D労働」(dirty 汚い, dangerous 危険, demeaning 品位を落とす)に従事している。彼らは、日本人に雇用されている限り、たとえ就労資格を持っていたとしても、「非正規雇用」とされるので、不平を言うこと許されない。

日本の法律は、彼らには対等な権利と庇護があるとうたっているが、実際の運用では、彼らの雇い主のなすがままの状態に陥っている。ブローカー制度(派遣労働のこと?)が、常に雇用主のそばにいて労働者の利益を削っている仲介者によって収入が圧縮されるという苦しみを追加する。

女性の移民たちは、さらに虐待と搾取をうけやすい。多くの人が、取引の犠牲になってきた。セックスクラブで働くことになってしまいか、低賃金で劣悪な労働条件の職場で働かされる。フィリピンのような貧しい国から来て、彼らは見下され、差別されている。エンターテイナーとして働いて日本人の夫と結婚することを重視している人たちは、「悪い女性」とされしばしば家庭内暴力をうけることになる。

ビザのない移民は最悪の状況におかれている。仕事は見つかりづらく、見つけたとしても賃金は最低ランクであり、虐待されやすく不公平な状況におかれている。強制退去に脅かされているため不平を言うことはできない。雇用の保証もなく、恩恵もなく、いつも警察や入管当局から逃げ回らなければならない。職場で事故が起これば、自己責任となる。訴訟に持ち込もうとすれば、また国外退去の見通しに直面する。こんにち、4000人から5000人のビザのないフィリピン人が日本にいと見られている。日本が不法滞在を厳しく取り締まっているため、仕事がなく貧困状態のフィリピン人の数は増え続け、状況は悪化している。

不幸なことに、フィリピン人移民は自身の政府の犯罪的ネグレクトにさらされている。国家の政策は自身の関心を守るために、フィリピン人移民とその家族ををさらに周辺化するものに成り果てている。反移民国家政策は労働輸出プロセスのあらゆる局面に満ちている。フィリピン政府は出稼ぎ労働を推奨する労働力輸出政策を推進しているが、苦しめられ不利益をこうむっている移民をサポートするプログラムはない。滞日フィリピン人は送金ランキングでは第5位だ。2014年に、送金は8億5000万ドル以上になった。社会に計り知れないほど貢献しているが、社会でもっともネグレクトされているのである。

フィリピン人移民と他国出身の移民は同じ状況におかれている。これらの人々は、日本社会の

なかでこんなに最も抑圧され搾取されている階級である。彼らの関心と切望は日本の搾取されている労働者階級と同じであり、それゆえにこれらの人々の闘争はひとつである。

労働組合が移民を競争相手と見るのは誤りである。幸いにして、日本には移住労働者の戦いを自らの戦いだと捕らえる先進的労働運動がある。連帯をこめて、彼らは移民の課題を組合でサポートするだけでなく、移民自身の組合を作ることを支援している。

日本の移住労働者は無視できない力だ。層が厚く、力を伸ばしている。日本での戦いはフィリピン祖国での戦いに統合され、日本の人々の戦いにも統合される。移民は変革のための力となりうる。右手に異なる様々な国籍の移民と、左手に日本の闘う人々と手を携え連帯することが重要だ。

滞日フィリピン人移民の運動

抑圧と搾取に反対して権利の向上と防衛のために闘う滞日フィリピン人の運動は広がってきている。この運動は日本で展開されているが、民族解放、自由、正義、平和をめざすフィリピンでの民族民主主義闘争と結びついている。

ミгранテ日本支部はフィリピン民衆の民族民主主義闘争へと積極的に参加するために、日本に住む数多くのフィリピン人同胞を組織している。日本の抑圧的で搾取的な法制度と闘い、不平等な労働慣行、ドメスティック・バイオレンス、性や労働をめぐる人身売買、そして私たちと移民たちが直面する他の多くの課題のなかで闘いつつ、私たちは自分たちの原則的な闘いは故国にあること、私たちの主要な敵は帝国主義、封建主義、官僚的資本主義というフィリピン社会における3つの根本問題であり、それが移住の根拠、あるいは、なぜ多くのフィリピン人が海外でより良い仕事と生活を見つけるために毎日自分たちの国を離れているのかということの理由になっていることに気付いてきた。

ミ格蘭テ・ジャパンは、日本にあるフィリピン人移民労働者の民族民主的なすべての組織の連合だ。私たちはフィリピン人移民労働者と家族のより大きな国際組織に属しているが、この国際組織はまた、バヤン及び ILPS のメンバーでもある。私たちは、日本にいるフィリピン人を目覚めさせ、組織し、立ち上がらせて、真の自由・民主主義・正義・平和のために、抑圧され搾取されているわれわれ民衆の大多数による民族民主闘争と願いを支持し前進させるために奮闘している。

私たちはまた、自国と同様に日本でも抑圧され搾取されている他国の移民労働者の進歩的な運動とも手と手を結んで活動する。私たちはまた、日本社会での有意義で進歩的な運動とも連帯し、共通の敵を打ち負かすために一つになって共同闘争を担う。

以上から、私たちはアジア共同行動（AWC）との連帯を重視する。私たちは数十年にわたって協力し合い、マニラと日本の街頭で一緒にデモをし、変革のために共通のスローガンを叫び、そして、帝国主義と反動に抗して民衆を解放するための地域的、地方的、国際的な運動を支えてきた。

私たちはグローバリゼーションと帝国主義の戦争と収奪の時代のなかにいる。私たちはより大きな数になって行進し、より大きな声をあげ、闘いと連帯のテンポをあげなくてはならない。私たちは闘いのなかの同志であり、私たちの連帯は時の試練のなかにある。

この総会は私たちの連帯の強さのひとつの確たる証明であり、それゆえ私はここで再び、私たちと心から共にあり続け、帝国主義を断固として打ち負かし、最終的には私たちの民衆の解放を実現するために、世界の進歩的・革命的な運動と結びついてきたすべての皆さん、アジア共同行動(AWC)の皆さんを祝福したい。

帝国主義を打ち倒すための私たちの闘いを続けよう！
独占資本の搾取から私たち民衆の解放をかちとろう！
真の自由、正義、恒久平和のために闘おう！
ひとつのものとしての私たちの闘いを続けよう！
国際連帯万歳！

ありがとうございます。